

報道関係者各位

2018年9月18日
慶應義塾図書館
丸善雄松堂株式会社

第30回慶應義塾図書館貴重書展示会

「インキュナブラの時代」

慶應義塾の西洋初版印刷本コレクションとその広がり

主催：慶應義塾図書館 協賛：丸善雄松堂株式会社

【会期】2018年10月3日（水）～10月9日（火）9：00～21：00（最終日は16時閉場）

【会場】丸善・丸の内本店4階ギャラリー

〒100-8203 東京都千代田区丸の内1-6-4 丸の内オアゾ内 TEL (03)5288-8881

入場
無料

「慶應義塾図書館貴重書展示会」では、慶應義塾図書館が所蔵する数ある貴重書を各回テーマに沿って展示し、一般の方々に公開しております。毎年多くの来場者にお越しいただき、今年で第30回を迎えます。

● 展示会の趣旨、見どころ

第30回となる今年は「インキュナブラの時代 慶應義塾の西洋初版印刷本コレクションとその広がり」と題し、15世紀に活字で印刷された西洋の初期印刷本である「インキュナブラ」コレクションを展示します。様々な変化と工夫を経て、現代の本のルーツとなったインキュナブラが、なぜ「印刷革命」と呼ばれ、今に至る影響力があるのか？慶應義塾図書館が所蔵する、当時の技術の粋を尽くした活版印刷本の美と、そこから広がる疑問と謎解きの世界をお楽しみください。

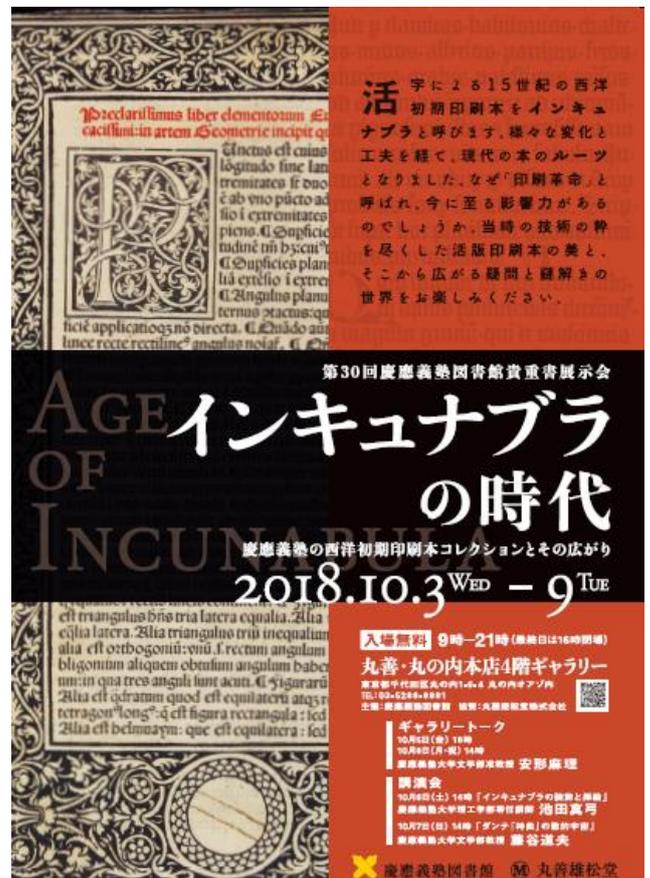
● 展示構成

第1部 活字という技術革新とその広がり

- I 活版印刷術の黎明：グーテンベルクとその周辺
- II 印刷術の広まり：イングランドを例に
- III 科学・学問の発展への寄与：(1)ルネサンス
- IV 科学・学問の発展への寄与：(2)図版の力
- V 年代記の流行
- VI 編纂という営為：百科事典と書誌
- VII 読者によるパーソナライズ

第2部 写本文化の継承と印刷本独自の発展

- VIII ローマン体の登場と洗練
- IX 写本の伝統：色による文章構造の提示
- X 色から白黒の世界へ：空白の役割
- XI フォリオ番号の導入と参照の仕組み
- XII 標題紙の登場



活字による15世紀の西洋初期印刷本をインキュナブラと呼びます。様々な変化と工夫を経て、現代の本のルーツとなりました。なぜ「印刷革命」と呼ばれ、今に至る影響力があるのでしょうか。当時の技術の粋を尽くした活版印刷本の美と、そこから広がる疑問と謎解きの世界をお楽しみください。

第30回慶應義塾図書館貴重書展示会

AGE OF INCUNABULA

インキュナブラの時代

慶應義塾の西洋初期印刷本コレクションとその広がり

2018.10.3 WED - 9 TUE

入場無料 9時～21時（最終日は16時閉場）

丸善・丸の内本店4階ギャラリー

東京都千代田区丸の内1-6-4 丸の内オアゾ内
TEL: 03-5288-8881

主催：慶應義塾図書館 協賛：丸善雄松堂株式会社

ギャラリートーク
10月12日（金）18時
10月19日（火）14時
慶應義塾大学文学部専攻 安形麻理

講演会
10月10日（土）16時 「インキュナブラの歴史と美観」
慶應義塾大学理工学部専攻 池田真弓
10月27日（日）14時 「ダンテ『神曲』の印刷の歴史」
慶應義塾大学文学部専攻 藤谷達夫

慶應義塾図書館 丸善雄松堂

● ギャラリートーク／講演会

展示をより深く楽しんでいただくため、ギャラリートークと講演会を開催します。参加をご希望される方は、開始時刻前までに展示会場にご参集ください。

ギャラリートーク

本展示会監修である、慶應義塾大学文学部の安形麻理准教授が展示品の内容や面白さを解説しながら会場を巡ります。

● 10月5日（金）18:00～／10月8日（月・祝）14:00～ 慶應義塾大学文学部准教授 安形 麻理

講演会

● 10月6日（土）14:00～ 「インキュナブラの装飾と挿絵」 慶應義塾大学理工学部専任講師 池田 真弓

● 10月7日（日）14:00～ 「ダンテ『神曲』の数的宇宙」 慶應義塾大学文学部教授 藤谷 道夫

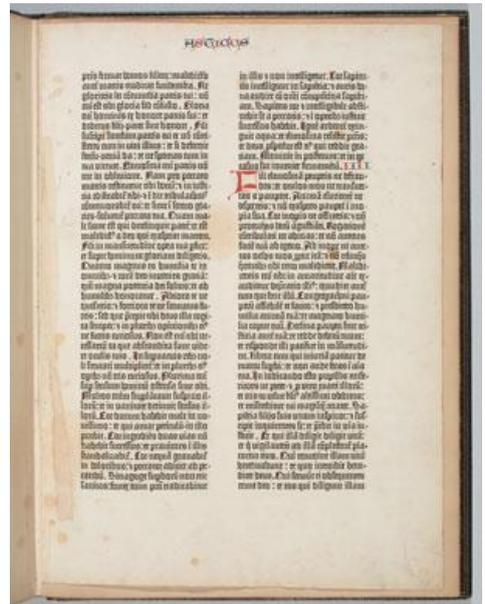
● 主な展示品のご紹介

【展示番号 2a】

「42行聖書」〔マインツ：42行聖書の印刷者（ヨハン・グーテンベルク）とヨハン・フスト、1455年頃）（零葉）

「グーテンベルク聖書」は、活版印刷術による西洋最初の本格的な書物であり、「印刷革命」の端緒を開いた。標題紙や刊記はなく、印刷者の名前や印刷地は一切記されていないが、用紙や活字などの綿密な研究から、また断片的な裁判記録などの周辺資料から、マインツの金細工師ヨハン・グーテンベルクがヨハン・フストの経済的支援を受け、1455年頃に完成させたと考えられている。黒インク以外の装飾頭文字や欄外標題、章番号などは印刷後に手書きで挿入された。写本のページレイアウトを踏襲しつつも、厳密な植字の規則を定め、いっそうの精緻化が図られている。近年、グーテンベルクの活字鑄造方法をめぐり、定説のように金属製ではなく、一度しか使えない母型が使われたのではないかという新説が提唱され、注目されている。

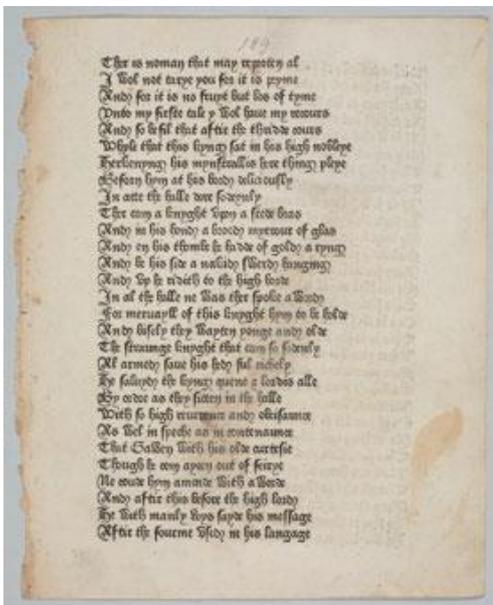
グーテンベルクの活字を使い別人が印刷した「36行聖書」や、印刷方法が論争的となった『カトリコン』と合わせて展示する。



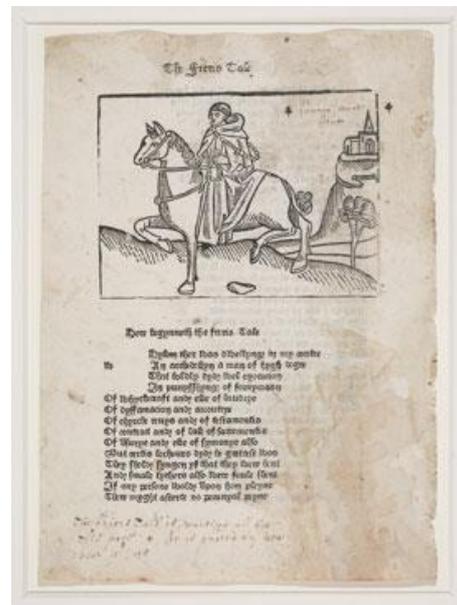
【展示番号 9 および 10】

ジェフリー・チョーサー『カンタベリー物語』初版（ウェストミンスター：ウィリアム・キャクストン,1476-77 年頃）（零葉） および第 2 版（[ウェストミンスター]：ウィリアム・キャクストン, 1483 年）（零葉）

英国初の印刷所を開いたのは、イングランドの毛織物商人としてブルゴーニュ公国との交易や外交に携わり、ドイツのケルンで印刷術を学んだウィリアム・キャクストンだった。英国における大作の印刷第 1 号は当時の人気文学作品『カンタベリー物語』初版であり、およそ 6 年後には第 2 版が刊行された。現代と違い、解版されて版は残っていないので、新たに活字を組み直すことになる。本文も部分的に修正されている。挿絵や欄外標題を入れるなどのレイアウトの大幅な変更は、新たな読者の獲得を目指すキャクストンの販売戦略をうかがわせる。第 2 版の現存数は少なく、初版と第 2 版を並べて見ることができるのは、国内の研究機関としては初の機会となる。



展示番号 9（初版）



展示番号 10（第 2 版）

【展示番号 16】

エウクレイデス（ユークリッド）『幾何学原論』（ヴェネツィア：エアハルト・ラートドルト, 1482 年 5 月 25 日）

版画は、手書きの挿絵に比べ、正確に、安価に、そして大量に同じ図像を複製することができる。活字も木版画も凸版であるため、同時に印刷でき効率もよかった。本書はエウクレイデス（ユークリッド）の『幾何学原論』を初めて印刷したもので、余白には多くの図形や線分が印刷され、ロトゥンダ体活字とアラビア数字による本文とよく調和している。読者による書き込みは、実用的に使われた様子を伝えている。余白の図版は、木版画とする説と金属鋳型を用いたとする説の両方がある。

複雑な音楽理論の図示や写実的な医学の図版など、科学の書における図版の力を伝える書物と並べて展示する。

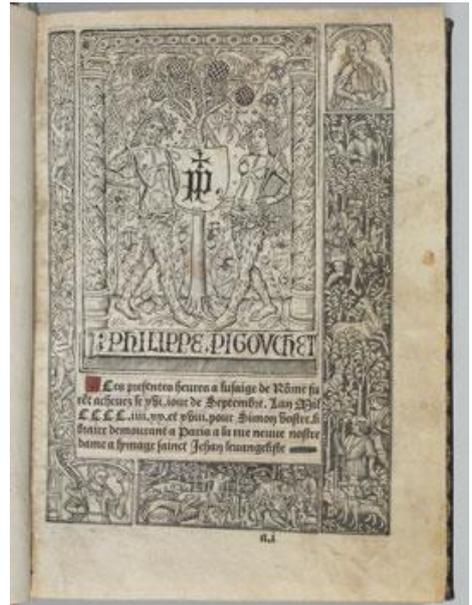


【展示番号 47】

『ローマ式典礼の時禱書』（パリ：フィリップ・ピグーシェとシモン・ヴォートル, 1498 年 9 月 16 日）

写本が注文生産を基本としていたのに対し、印刷本は見込みで生産され、在庫となる。インキュナブラ時代に、販売までの一時的な識別のため標題紙が登場し、やがて購買意欲をそそる版画や宣伝を添えた標題紙へと発展していく。

本書の標題紙には、印刷業者の大きな商標の下に標題や店の住所などが示されている。時禱書とは平信徒向けの祈禱文集で、14、5 世紀には手書きの細密画が施された写本が数多く制作された。本書の本文の周囲は数多くの版画で埋め尽くされており、写本の挿絵に、量で対抗し差別化を図ろうとした様子がわかる。



● 慶應義塾図書館貴重書展示会情報

http://www.mita.lib.keio.ac.jp/exhibition/annual_exhibition/

● 丸善・丸の内本店イベント情報

https://honto.jp/store/detail_1572000_14HB310.html

お問い合わせ

丸善雄松堂株式会社 経営管理部 広報担当 濱田 Tel: 03-6367-6006